



大学で天文は学べるのか？

鈴木 文二（埼玉県立春日部女子高等学校）

高校の教育課程が新しくなってから、初めての大学入試センター試験が行われた。物理、化学、生物の3科目すべてを受験することが可能になった反面、地学と物理は同時選択できないという設定になった。表1は駿台予備校がwebページで提供している科目別受験者数の速報値である。昨年同様、地学は生物よりも文系の生徒の割合が多い。また新科目である理科総合Aで受験する生徒数が地学を上回った。地学の教科書採択率は、5%程度と聞いている。高校教育における地学の瀕死状態を示す数値は、他にもいろいろとあげられている。

表1 科目別受験者数

科目	合計	文系	理系
物理	114,789	5,641	109,148
化学	162,902	14,549	148,353
生物	151,409	88,368	63,041
地学	20,878	17,860	3,018
理科総合A	30,477	25,052	5,425
理科総合B	15,474	9,441	6,033

駿台ベネッセデータネット より

<http://www.sundai.ac.jp/yobi/>

地学という科目が存続するかどうか、疑問だという声もある。そもそも地学が必要かどうか、再検討すべきだという意見もある。天文などの地学の分野は、数学や物理などの基礎科学の訓練を経た後に学ぶほうがよいという考え方もある。生活に密着する自然現象、災害については義務教育で学ぶことによって完成させるという提案もある。

さて、本会のML上で話題になった「天文学を学べる大学」とは、天文の専門教育を行

う大学を示すらしい。物理、数学などは高校時代に必須で学んでおく必要があり、大学入学後にも理系の王道ともいえるコースを収めなければならない。やがて、学部でもまだまだ触れるのは早い、基礎科学をみっちりやってから大学院で学べという時代になるかもしれない。天文学は「限られた密室で行われる魔術」と化するのだろうか。

中学校では指導要領の緩和があり、少しだけ余計なことを学べるようになった。しかし、所詮は太陽系止まりである。高校での理科総合Bも内容に大差はない。理科の生活科化が進んでいるのである。一方で、高校において基礎科学の学習(受験勉強)をし、大学での講義を楽しみにしている高校生は、特定な「天文学を学べる大学」の専門課程に行かなければ夢は叶わない。そして運良く学べたとしても、それを生かせる道は必ずしも多くはない。

「天文学を学べる=研究者養成」ということだけではないはずだ。大学への要望は簡単である。文学部、法学部、経済学部、農学部、医学部・・・の学生たちも太陽系から脱出させてほしい。すべての大学生に天文学を教えることを、厭わず努力して欲しいということだ。大切なのは、数式を使うかどうかではない。情緒的ではなく論理性を持って宇宙を語るということだろう。かつての高校全入時代から、大学全入時代へと状況は変化している。高校地学の存続問題は、形を変えて大学で問われるようになる。